

unicef

ユニセフと地球の子どもたち⑤

http://www.unicef.or.jp

イラク
Republic of Iraq

な 鳴りやまない大きな音
とも 友だちの死を乗り越えて

イラクでは、アメリカ軍などの空爆で、家や学校、病院など多くの建物が破壊され、子どもたちが安心して外で遊ぶことができなくなった。また、混乱の中で水道設備もこわされ、安全な水がなかなか手に入らない。このような状況で、子どもたちはどんな暮らしをしているのかな？ ザラちゃん(九歳)のお話を聞いてみよう。

わたしはザラ。わたしの住んでいたバグダッドでは、ある晩、突然ものすごく大きな音が鳴りひびくようになり、それから毎日、飛行機から何か落ちてきては、大きな音と同時に、建物がかわねる音が鳴りやまなくなりました。通っていた小学校もあぶないのでお休みになってしまいました。

親友のジビエ 家の下敷きに



ある朝、ジビエのお母さんが家にやって来て、わたしをだきしめながら、「きのうの夜の空爆で家がこわれ、ジビエががれきの下じきになって亡くなったの」と泣きながらいきました。何のことかわかりませんでした。ジビエのお母さんはここにいます。

「あの大きな音は、空爆(飛行機からの攻撃)の音よ」とお母さんが教えてくれました。

あぶないので、外で遊ぶことも、大

センターでの活動がささえに 親友の思い出は生きつづける



水道設備がこわされたイラクの町のようす

©UNICEF/HQ03-0210/Patrick Andrade



に、ジビエがいなくなるなんて……。しばらくして、わたしたちはイラク南部の親類の家に疎開することになりました。けれども、食べ物も飲み水もだんだん手に入らなくなり、兄のナビールもわたしもいつもおなかのすき、のどもからかすき、となりの家の赤ちゃんは、よこ



ここは空爆の音がしないところなのに、わたしの頭の中ではときどき、あの大きな音が鳴りひびいて、そのたびに心臓がドキドキします。ジビエの顔を思い出すと、胸が苦しくなり、手足がふるえます。



みんながわたしのことを心配し始めたとき、ユニセフの人がたずねてきました。お母さんは、水や食べ物のこと、わたしのことをユニセフの人に話しました。するとその人は「ぜひ一度いらっしやい」と、センターのことを教えてくれました。お母さんは、

となく、さまでまでしよう。すぐに思うような行動が起これないこともあるかもしれない。でも、「世界の子どもたちのために」というすばらしい気持ちを持ちつづけていけば、かならず道が開けると信じています。

掲載は一週おき。次は十六日の予定です

イラクの農村部で安全な水を使える人の割合



世界のすべての子どもは「権利」をもち、「子どもの権利条約」に守られています。第三十九条は「犠牲になった子どもを守る」とうたっています。子どもがほう

子どもは「権利条約」を守られています。子どもは心や体の傷をなおし、社会にもどれるようにしなければなりません。

ユニセフは国と協力して、子どもたちが絵をかいたり、話をしたりすることで心の傷をなおすセンターをつくり、子どもたちが早く元気になるように応援しています。

おしえてユニセフ

地雷は、
て何です

地雷は、
ふれたり、

ふんだりすると爆発する武器です。人々に危害を加えるためにつくられ、戦争のとき、地面にうめられたり、ばらまかれたりします。

地雷は戦争が終わってもそのままになっていて、地雷がた

その被害にあう人

が後をたちません。地雷で死傷する子どもは、毎年八千人から一万人といわれています。学校に行くときや、畑で家族の手伝いをするとき、外で友だちと遊ぶと

さわったりすると爆発 毎年1万人の子が死傷

地雷は一個、三ドルから十ドルほどでつくることが出来ます。しかし、地雷を取り除くためには、二三百ドルから千ドルもの費用がかかるうえ、作業には大きな危険もともないます。世界にはまだ

るので、ユニセフは、子どもたちが地雷の被害にあわないように、地雷の形や見つけたときにどうするかを教える「地雷教育」に力を入れています。

ユニセフと
いつしよに

「ユニセフハウス」(東京都港区)の展示スペースをおとずれるみなさんから

日本ユニセフ協会
展示ボランティア
わたしは答えます。

日本ユニセフ協会
展示ボランティア
わたしは答えます。

募金、リサイクル...できることから始めよう

「まずは自分



のために、自分たちは何をしたらいい

募金活動、リサイクル活動、世界の国や子どもたちのことを調べて知らせる

募金活動、リサイクル活動、世界の国や子どもたちのことを調べて知らせる

ユニセフハウスで熱心にお話を聞いている長野県駒ヶ根市の赤穂南小学校の六年生

